

須賀川市特撮文化振興基本方針

■■空想を現実に■■



基本方針の策定にあたって

「特撮の神様」と呼ばれる人物がいます。

須賀川市出身の円谷英二監督です。

特撮の映像は、現実にはありえないような世界を、こうしたらできるのではないかと、こうしたらおもしろいのではないかと頭の中で空想することで作り出されてきました。円谷英二監督は、この空想する力（空想力）が大変優れており、素晴らしい映像をたくさん作り上げてこられました。

本市ではこれまで、特撮を文化としてとらえ、貴重な資料の収集や保存、そして特撮文化を継承し、広めていく活動をしてきました。

この方針は、今後、本市が特撮文化の振興にどのように取り組んでいくのかを示す、基本的な方向性を定めるものです。

特撮文化を広めていく活動は、全国自治体の中で唯一の取り組みであり、空想力を働かせ、この方針を現実にしていくことによって、みなさんが本市に住み続けたいという誇りや愛着が育まれることを期待しています。

令和5年3月 須賀川市長

橋本克也

円谷英二監督（須賀川市名誉市民）

円谷 英二（つぶらや えいじ）

1901（明治34）年7月7日～1970（昭和45）年1月25日



須賀川市（旧須賀川町）生まれ。操縦士を目指し日本飛行学校に入学した後、神田の電機学校に入学しました。映画界へ入った後は、撮影技術を研究し、『ハワイ・マレー沖海戦』など数々の作品で特殊技術を手掛け、1954年に公開された特撮映画『ゴジラ』で特殊技術を担当し、1955年の『ゴジラの逆襲』では「特技監督」を務めました。

1963年に株式会社円谷特技プロダクション（現・円谷プロダクション）を設立し、ウルトラマンシリーズなど、その後も多くの作品で特技監督・監修を務め、手掛けた数々の作品は「特撮文化」の礎となり、「特撮の神様」とも呼ばれています。

2021年7月7日に須賀川市名誉市民に選ばれました。



円谷英二監督とウルトラマン

目次

第1話	特撮とは?.....	P4
第2話	なぜ特撮を残していくのか?.....	P5
第3話	他の計画とのつながり.....	P6
第4話	市が大切にしている取り組み.....	P7~8
第5話	これまでの取り組み.....	P9~10
第6話	これからの取り組み.....	P11~16
第7話	活動の拠点.....	P17
第8話~	今後の進め方.....	P18
	すかがわ特撮塾第1期生からのメッセージ.....	P19~20
	関係者からのメッセージ.....	P21~22

第1話 特撮とは？

「特撮」とは“特殊撮影”の略語です。

巨大化した怪獣が街を壊すことは、現実には起こりません。

飛行機やロケットなどは、生身の人間が撮影すると命に危険が及びます。

空想の生物が動きだす様子や空を飛ぶ飛行機やロケットを間近で撮影するなど、現実には起こることのない現象の表現や現実では撮影できない状況のイメージを映像にするための技術を「特撮」と言います。

須賀川市出身の円谷英二監督は、「特撮の神様」と呼ばれ、現実では撮影できない表現やイメージを映像にしてきました。

特撮には、現実には存在しないものがどうしたら本物のように見えるのか、どうしたらありえないものを撮影できるのかという課題に対する、創意工夫の精神が込められているのです。



第2話 なぜ特撮を残していくのか？

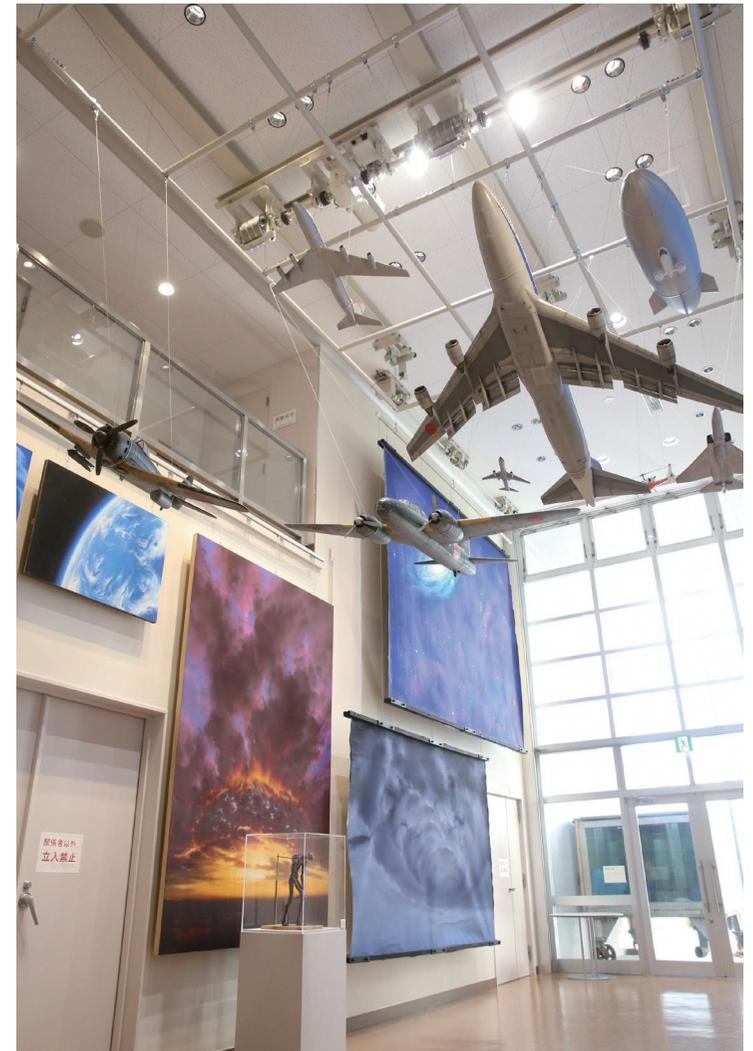
日本の特撮は、日本だけでなく、世界の映像文化にも大きな影響を与えてきましたが、[※]CG技術の広まりとともに、活躍の場が失われつつあります。

特撮には、発想と技術が詰まっています。しかし、特撮で使用されたミニチュアをはじめとする資料は、撮影が終わるとそのほとんどが廃棄されてきました。また、特撮の撮影風景を残した映像は、古い時代のものほど残されていません。

特撮で使用された資料には、当時の技術者の発想や技術が詰まっており、どうやって撮影されていたか、どういう風に工夫されていたか、という謎を解くための鍵なのです。

市では、「特撮の神様」と呼ばれる円谷英二監督を顕彰するとともに、特撮で使用された貴重な資料を収集、保存、修復、調査、研究し、失われつつある特撮を文化として残す活動をしています。円谷英二監督の故郷だからこそ、市がこの活動に取り組むべきと考えています。

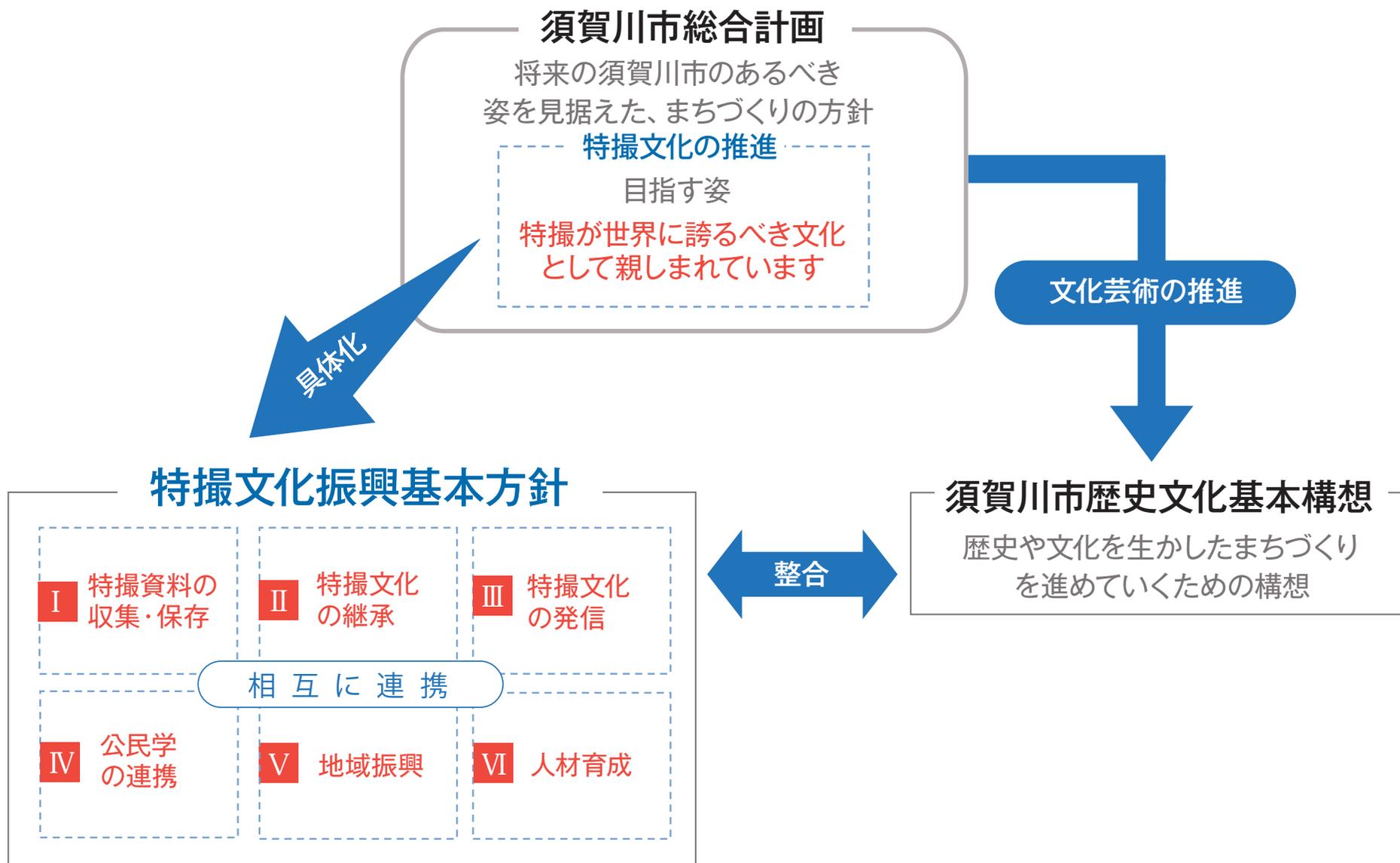
※CG・・・コンピュータグラフィックスの略。
コンピュータを使って描かれたデジタルの図形や画像のこと。



須賀川特撮アーカイブセンター「1階ホール」

第3話 他の計画とのつながり

市の総合計画の施策を達成するために、特撮が文化として親しまれることを目指します



I 特撮資料の収集・保存

「特撮」を世界に誇る文化として、収蔵庫を計画的に整備し、特撮の資料を収集・保存していきます。



須賀川特撮アーカイブセンター「収蔵庫」



スカキング
(須賀川特撮アーカイブセンター オリジナル怪獣)

II 特撮文化の継承

「特撮」で使用された資料を修復、調査研究していきます。



戦艦三笠「3Dスキャン作業」

III 特撮文化の発信

「特撮」の魅力を伝えるため、体験型のワークショップを実施したり、映像として発信したりしていきます。



「綿で雲を作ってみよう」ワークショップ

次の6つを柱に取り組みでいきます

V 地域振興

特撮映像の撮影拠点としての機能を構築することで、撮影地としての魅力を創出し、交流人口の拡大に努めていきます。



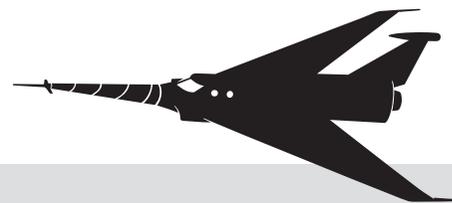
「自主怪獣映画」撮影風景

IV 公民学の連携

「特撮」を文化として広めていくために、関係機関や教育機関と連携していきます。



2020年11月2日 連携協定締結式



スカイワッサー!!
(須賀川特撮アーカイブセンター オリジナル飛行メカ)

VI 人材育成

円谷英二監督のような空想力を持った映像分野のクリエイターを生み出すよう、人材育成に力を入れていきます。



「すかがわ特撮塾」着ぐるみ制作

第5話 これまでの取り組み

市はこれまでいろいろな取り組みにより特撮との関わりを

特撮をめぐる動き

「館長 庵野秀明 特撮博物館
ミニチュアで見る昭和平成の技」開催
主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館/
日本テレビ放送網/マンマユート団
企画制作協力：スタジオジブリ/三鷹の森ジブリ美術館

特撮という文化が失われる危険性が
世の中に知られるようになるきっかけ

「特撮塾@ふくしま」開催
主催：文化庁
共催：福島県、須賀川市

特撮資料の保存の重要性について語るトークイベント

特定非営利活動法人
アニメ特撮アーカイブ機構 設立
(理事長：庵野秀明氏)
アニメ・特撮資料の保存・アーカイブを
目的とするNPO団体
※2023年1月に東京都より認定を受けました



特撮文化推進事業実行委員会 設立
(主体：須賀川市、福島県、アニメ特撮アーカイブ機構、
学校法人国際総合学園FSGカレッジリーグ国際アート&デザイン大学校、
須賀川商工会議所、森ビル株式会社)



市の取り組み

「M78星雲 光の国」と姉妹都市提携
7月からウルトラマンシリーズの
モニュメントを段階的に設置



未利用公共施設を活用して
特撮関係資料の保存を開始



円谷英二ミュージアム
オープン



深めてきました

円谷英二監督の誕生日（7月7日）
を「特撮の日」として記念日登録

申請者：特撮文化推進事業実行委員会



「背景画家 島倉二千六ギャラリー展」開催

主催：特撮文化推進事業実行委員会



「生誕100年 特撮美術監督 井上泰幸展」開催

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 / 朝日新聞社

2019年2月

2020年11月

2021年11月

2021年12月

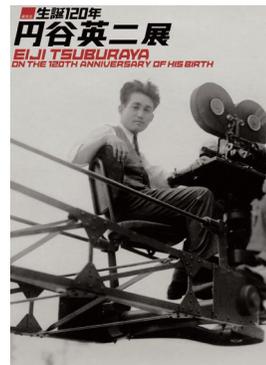
2022年3月

2022年6月

須賀川特撮アーカイブセンター
オープン



「生誕120年円谷英二展」開催



撮影用クレーンに乗る円谷英二（1934）
国立映画アーカイブ所蔵

「すかがわ特撮塾」開講



第6話 これからの取り組み

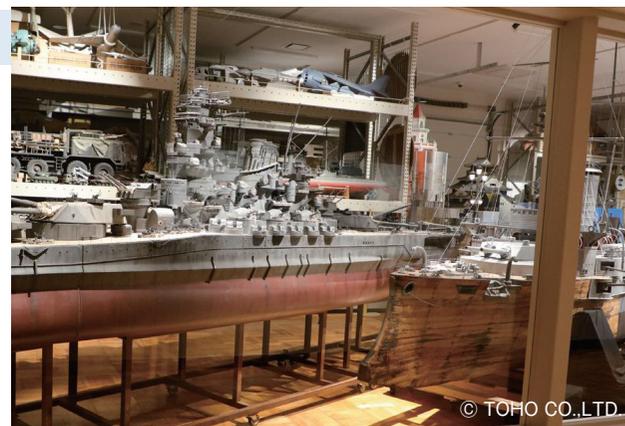
I 特撮資料の収集・保存 ～持続可能な保存と活用～

- 特撮で使用された貴重な資料を収集・保存していくために、収蔵庫を整備していきます。
- 特撮の資料を市独自の特撮文化財として指定し、価値を守っていきます。

◆収蔵庫の整備

特撮で使用された資料の収蔵のために、須賀川特撮アーカイブセンターに続き、収蔵庫を整備し、適切な環境で資料を収集・保存し、後世に継承していきます。

特に円谷英二監督に関する貴重な資料を計画的に収集することにより、貴重な資料の破棄や散逸を防ぎます。



須賀川特撮アーカイブセンター「収蔵庫」



須賀川特撮アーカイブセンター「2階ミニチュアセット」

◆特撮文化財の指定

貴重な特撮資料を保存・活用することを目的として、「特撮文化財」という市独自の制度を構築し、資料を指定します。特撮文化財として指定することにより、資料の修復に関する支援や資料をデータベース化し、世界に誇れる市の取り組みとして、保存、活用していきます。

II 特撮文化の継承 ～特撮を伝える資料を残すために～

- 特撮で使用され、傷んだ資料を修復し、その技術を継承していきます。
- 撮影当時の技術が詰まった資料を調査研究し、後世に残していきます。

◆特撮資料の修復

撮影当時に使用されたミニチュアなどの資料は、修復のために専門の知識、技術が必要となります。貴重な資料を保存・修復し、後世にその技術を残していきます。

また、資料の修復の様子を映像として記録し、技術の継承のために活用していきます。



須賀川特撮アーカイブセンター資料のリスト化作業



戦艦三笠の調査・修復作業

◆特撮資料の調査研究

特撮資料は、当時の撮影の様子や技術が分かる貴重なものです。発想や技術を継承することを目的として、使用された資料の作品名や材質などを調査していきます。

調査研究していくことによって、特撮資料の価値を正しく評価し、特撮資料や技術を後世へと残していきます。

※資料の収集、保存、修復、調査研究等の活動の一部を文化庁の補助事業で実施しています。

Ⅲ 特撮文化の発信 ～特撮の魅力をわかりやすく伝える～

- 特撮を体験できるワークショップや特撮に関する講演会を開催し、魅力を伝えていきます。
- 特撮ワークショップの様子や特撮の技術を映像として発信していきます。

◆ワークショップ・講演会の開催

特撮の映像は創意工夫が多く詰まっています。その技術を目の前で実演するワークショップや講演会を開催することで、特撮に親しむ機会を設け、円谷英二監督の功績、特撮の魅力や空想力を伝えていきます。

特撮を身近に感じることで、特撮に対しての愛着や誇りを育てていきます。



「背景画家 島倉二千六ギャラリー展」ワークショップ



円谷英二ミュージアム発信動画の撮影風景

◆特撮映像の発信

円谷英二ミュージアムを通じて円谷英二監督を称えるとともに、ワークショップや講演会、特撮関係者のインタビュー映像など、特撮の技術や撮影当時の秘話分かるものを映像として記録し、発信していくことで、円谷英二監督の功績や世界に特撮の魅力をわかりやすく伝えていきます。

全国自治体の中で唯一の取り組みを発信していくことで、多くの人に特撮を文化として理解していただくことを目指します。

Ⅳ 公民学の連携 ～特撮文化を支える地盤～

- 特撮関係者や特撮を研究する機関と連携して、特撮を文化として広めていきます。
- 美術系の学校などと連携して、市内での撮影を支援していきます。

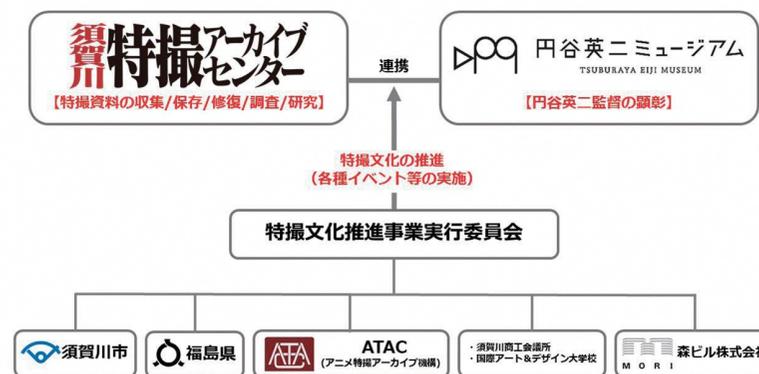
◆関係機関との連携

文化庁や2020年に連携協定を締結した認定NPO法人アニメ特撮アーカイブ機構（ATAC）と連携して資料の調査・研究に取り組むとともに、特撮ワークショップやシンポジウムを開催していきます。

市民が特撮の取り組みを誇りに思えるよう、特撮を文化として広めていきます。



市内での自主怪獣映画の撮影



◆教育機関との連携

美術、芸術、工学系の学校などの教育機関と連携して、須賀川特撮アーカイブセンター内で撮影用ミニチュアなどの制作・修復作業を行うなど、研究施設として活用していきます。

また、市内における自主怪獣映画の撮影など、アマチュア監督が特撮作品を撮影することを支援していきます。市内での特撮映像の撮影に市民が参加することで、市民が特撮を身近に感じ、愛着を持てるよう取り組んでいきます。

V 地域振興 ～交流・関係人口の拡大～

- 特撮の関連施設などを周遊することによって、交流人口を拡大します。
- 市を特撮の撮影地として活用できるように、計画的に整備していきます。

◆特撮関連施設の周遊

「M78星雲 光の国」との姉妹都市提携をきっかけに設置されたウルトラマンシリーズのモニュメント、特撮文化を推進するための拠点となる須賀川特撮アーカイブセンター、円谷英二監督の功績を称える円谷英二ミュージアムなど市内の特撮関連施設をPRすることにより、市内の回遊性を高め、交流・関係人口の拡大を目指します。



須賀川市役所前のウルトラの父のモニュメント



ながぬまラボ

◆撮影地として整備

公共施設を特撮の撮影地として活用できるよう環境を整備していきます。
また、撮影スタッフの利便性を考慮し、撮影地の近くに必要な機能やミニチュアを保管する施設を整備していきます。
計画的に整備していくことによって、撮影地としての魅力を高めるとともに、撮影の誘致により飲食店や宿泊施設の利用など地域振興を図っていきます。

Ⅵ 人材育成 ～第2の円谷英二監督を目指して～

- 年間を通した講座（すかがわ特撮塾）やアマチュア監督による映画祭の開催などを通して、映像分野のクリエイターを目指す人材を育成します。

◆すかがわ特撮塾の開催

子どもたちに夢を持つことのすばらしさ、夢を与えるために挑戦し続けた円谷英二監督の精神を受け継ぐ人材の育成に取り組んでいきます。

特撮映像に携わるプロを講師として、撮影技術、ミニチュア制作、映像編集を学ぶことができる年間を通した講座を開催し、円谷英二監督のような空想力を持った映像分野のクリエイターの育成を目指します。



2022年6月 第1回すかがわ特撮塾（第1期生）



全国自主怪獣映画選手権<須賀川傑作選>ポスター

◆全国自主怪獣映画選手権の開催

アマチュア監督が制作する自主怪獣映画の映画祭を市内で開催し、アマチュア監督の成果発表の場を作ることで、映像制作の道を目指す人材を生み出していきます。

また、すかがわ特撮塾で制作した映像を上映することによって、子どもたちに映像分野のクリエイターを目指すきっかけを与えます。

第7話 活動の拠点

6つの取り組みを進めていくための拠点となる施設を紹介します

須賀特撮アーカイブセンター



特撮に関連する貴重な資料などを、収集、保存、修復、調査研究し、特撮文化を推進するための拠点となる施設です。

円谷英二監督が活躍した時代から現在までに実際の撮影で使用された資料などが1,000点以上保管された収蔵庫や、特撮資料の修復や調査研究を行い、ワークショップにも活用できる作業室などが設置されています。

円谷英二監督の功績を称えとともに、子どもたちに学びの大切さ、挑戦する素晴らしさを伝え、次の世代に生きる人々に大きな夢を与える施設です。

円谷英二監督の68年間のあゆみや人となりをパネルや映像インタビューで紹介し、特撮メイキング映像や造形物を展示しています。また、特撮に関連する図書や発想のもとになる図書を並べ、円谷英二監督や特撮の魅力を発信しています。

円谷英二ミュージアム TSUBURAYA EIJI MUSEUM



ながぬまラボ



地域文化を通じたコミュニティ活動など多様な文化活動を促進し、市民の文化の振興を図るための施設です。

テレビドラマ、劇場映画の特撮シーンの撮影や、自主怪獣映画の撮影が行われるなど、主に特撮シーンの撮影地として活用されています。

第8話～ 今後の進め方

この方針を進めるにあたっては、市の関係部署、外部の関係団体と連携・協力しながら、取り組んでいきます。

円谷英二監督が夢に向かって挑戦し続けたように、目指す姿（夢）に向けて必要に応じてこの方針を修正・改訂していきます。

市民が特撮に愛着を持ち、自分の生まれ育ったまちを誇りに思えるように、そして、特撮が世界に誇るべき文化として親しまれるよう、第1話から第7話までをもとに取り組みを実行し、第8話以降も将来にわたって特撮文化の物語を進めていきます。

つづく



すかがわ特撮塾 第1期生からのメッセージ

特撮塾に参加していろいろな体験をし、今までよりも特撮に興味をもつようになりました。この面白さをたくさんの人に知ってほしいと思います。

中学校2年生



将来田口監督や英二監督のような特撮監督になることが夢だったので、田口監督やたくさんのスタッフの方にお話を聞いて嬉しかったし、実際の仕事を近くで見ることができて将来の姿をイメージすることができました。

中学校2年生



この活動で初めて「特撮」を“見る側の視点”から“作る側の視点”になり特撮がすごく好きになりました。

中学校2年生



思ったよりも「特撮」を完成させるのは難しいんだなと思いました。しかし、そんな努力を重ねることで、その集大成として「特撮」が生まれる。だからこそ残していくべきだと感じました。

中学校2年生



幼いころのヒーローにあこがれる気持ちや怪獣におびえる気持ちと、特撮映画を仕事にする自分の進路や夢に大きな影響をあたえてくださりありがとうございました。

中学校2年生



特撮は人々を楽しませる子供も大人も関係なく勇気や夢を与えてくれる事、その一方撮影の工夫や大変な苦労があるすごい日本の文化だと思いました。

中学校2年生



一つの作品に対してどれだけ情熱を注いで努力できるのかが大切なんだと感じました。そしてその努力が自分の将来に一番大切なものなんだと感じました。

高校2年生

この「特撮塾」を通して、改めて特撮という文化の素晴らしさに気づいたとともに、こんなにたいへんなものを毎週のように作ってきた人達のすごさにも気づきました。こんなに素晴らしい体験のできる「特撮塾」に参加できて良かったです。

中学校3年生



このような機会を今後も続けてほしいです。そして特撮の貴重な資料と共に技術も継承し、私のように興味を持った人が学べる場を増やして須賀川が特撮の町として広まってほしいと思います。

高校2年生



関係者からのメッセージ

※五十音順

(肩書は2023年3月現在)



監督・プロデューサー
／ATAC理事長

庵野 秀明

ANNO HIDEAKI

詳細なお話は友人らが書いてくれているので、

自分は長く書きません。

皆様、ここに至るまで、

どうも有難うございました。

そして皆様、これから先も、

特撮の明日の為に何卒よろしくお願いします。



特撮監督／ATAC

尾上 克郎

ONOU KATSUROU

特撮文化の推進と振興。須賀川市の掲げた画期的かつ野心的な取り組みに対し心より敬意を表します。

文化とは人々の間に根付いた物事を指すそうです。物事とは人の作り出した「物」と人の行いである「事」が組み合わせられた言葉です。須賀川特撮アーカイブセンターは特撮の遺産たる「物」を収蔵する文化の片翼を担う重要な拠点です。これに加え円谷英二ミュージアムによる伝承と発信、ワークショップや特撮塾と、「事」への取り組みも始まりました。ながぬまラボには撮影拠点の整備計画もあるそうです。ここにきて須賀川市と私達の協働が実を結び、漸く特撮という物事が文化になる土壌が整いました。

消えかけていた特撮の炎は再びこの地で文化として蘇り燃え上がろうとしています。この炎が消えぬよう文化としてこの地に根付くよう、これからも特撮の聖地須賀川市とともに歩んでゆく所存です。何卒市民の皆様には、なお一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。



有限会社M1号代表取締役
／ATAC

西村 祐次

NISHIMURA YUJI

福島県須賀川市。そこは特撮の神様円谷英二の生誕地、円谷英二ミュージアム、そして次から次へと貴重な小道具や資料が収蔵され続けている特撮アーカイブセンター。

まさに特撮の聖地である。

私の職場M1号は郡山で活動している。近年全国から特撮の友人達はその聖地を訪れ帰りにM1号を訪問する人たちが増えている。コロナ禍での行動も徐々に緩やかになり海外からの特撮ファンもわざわざ訪れて帰りにM1号を訪問する。訪れた人達からは感動を形にして持って帰ることができる何かアイテムが欲しかったという意見が多い。例えば図録やそこでなければ買えないTシャツや何かという声がある。

特撮ファンが好む怪獣ソフビ人形、例えば特撮アーカイブセンターのマスコット『スカキング』のソフビ人形製作。これはマストな気がする。ご来場者の方々が良い記念として喜んでくれるであろうものづくりも私たちができる事の1つであると思う。



東京芸術大学大学院
映像研究科非常勤講師
／ATAC修復師

原口 智生

HARAGUCHI TOMOO

須賀川特撮アーカイブセンター。設立より2年を迎えました。

まず開館1年目、既に貴重なミニチュア、資料の保存、収蔵が始まり、そして昨年、更にもう一つの目的、三池敏夫氏の雲のワークショップ、田口清隆氏による、市の若い世代と共に新たな特撮映像を実践的に作り上げる、特撮塾。

たった2年でこれだけの夢が実現した。驚くべきことです！

日本、そして世界に唯一無二のこの特撮文化の拠点は、円谷英二の故郷、須賀川だからこそ出来ているというのが実感です。

保存、収蔵、研究、そして新たな創造！



明治大学大学院特任教授
／ATAC副理事長

氷川 竜介

HIKAWA RYUSUKE

約50年前、高校生の自分は円谷プロダクションの怪獣倉庫を見学させていただき、スーツやマスク、ミニチュア類に心をときめかせました。空想特撮映像と現実世界が結ばれた瞬間です。人の作りあげたものがある。そんな「当たり前」を思い知らされました。

人間にはこの「当たり前」を疑わない性質があります。そして失われてから、いかにその「当たり前」が大切だったか気づく。特撮のミニチュア類もその代表です。須賀川市の方々のおかげで、失われることなく未来へつなぐことが出来るようになりました。敬愛する円谷英二特技監督の生地で、新たに人の心をときめかせる特撮文化の数々、その体験もまた自分の原点に繋がっていることを大変嬉しく光栄に思います。

貴重な特撮文化の永續のため、これからも市民のみなさんと力を合わせて発展と挑戦を続けていきたいと思います。



監督・特技監督
／ATAC副理事長

樋口 真嗣

HIGUCHI SHINJI

須賀川市の皆さんと特撮を通じて共に歩みはじめて9年になります。

特撮の歴史的価値を見出し、未来に向けて保存することから始まり、特撮の魅力を共有し、発信する新たな段階に進み始めています。

特撮にはその長い歴史に比例して色々な魅力があります。

強いヒーローの胸躍る活躍だけでなく、居場所がなく排除される異形の存在の悲しみ、忘れてはならない過去の災禍の再現、誰もみたことのない空想の世界——。細心な作業を積み重ね、大胆なアイデアで現実を捻じ曲げ、カメラを通して切り取ることで小さなものが大きく見え、抜け殻だった架空の生き物は命を宿すのです。

120年前に円谷英二さんが生を受けた須賀川はいよいよ名実ともに特撮の街になります。

円谷さんが生涯を賭して作り上げてきた特撮を通じて、自由な発想、不可能への挑戦、創造の喜びを一緒に体感しましょう。



特撮デザイナー
／ATAC

三池 敏夫

MIKE TOSHIO

須賀川市のご協力のおかげで日本特撮を未来へ残すための活動が続いています。

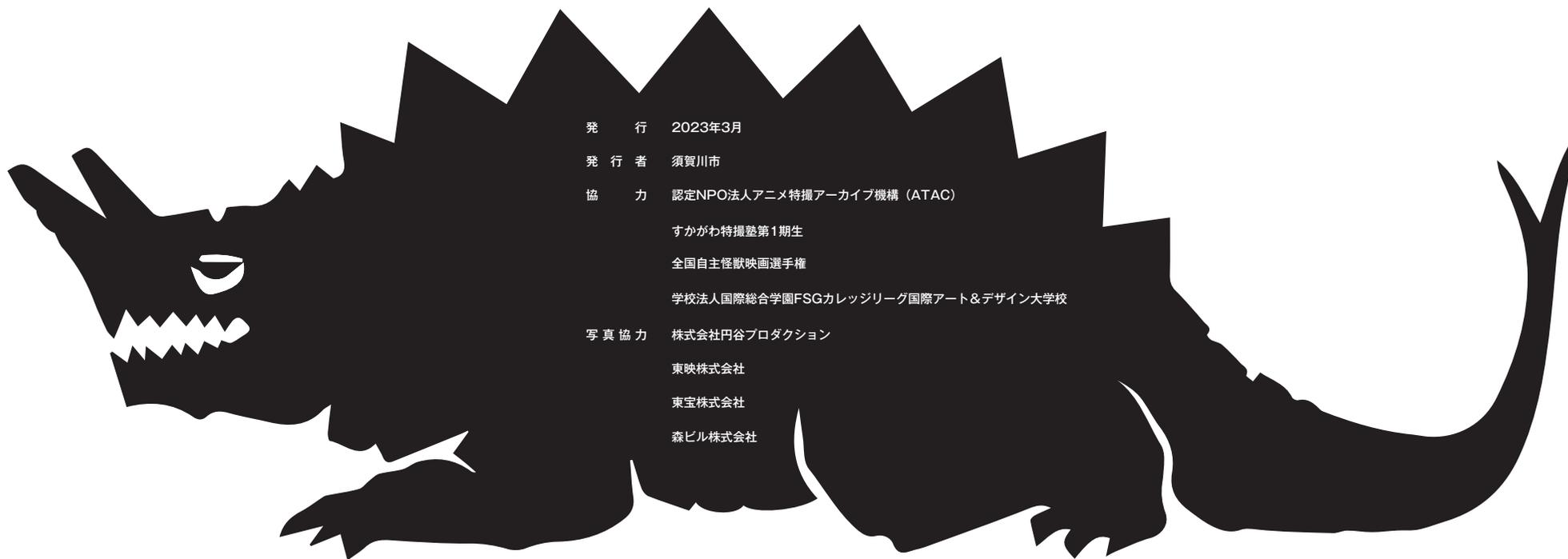
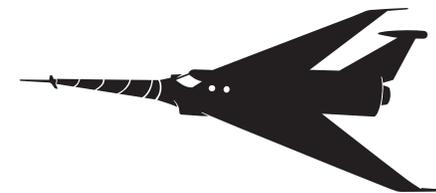
2022年には東宝特撮映画の美術監督を担当した渡辺明さんと井上泰幸さんの資料を須賀川特撮アーカイブセンターに保管しました。整理と調査はこれからの課題ですが、円谷英二特技監督作品の舞台裏を記録する重要な凶面や現場写真です。こうして年々増えつつある特撮資料の保管庫の増設は喫緊の課題であり、切にお願いしたいところです。

また、特撮を若い世代に体験してもらう活動をワークショップや特撮塾という形で続けています。技術の継承は先人たちからの聞き取りに加えて、実践を通してより確かなものとなります。須賀川市を中心として今後も特撮体験の場を広げていければ本望です。特撮を体験したい、特撮を知りたいという皆さんの声をお待ちしております。

これからも末永くお力添えよろしくお願いいたします。



スカキング 令和3年度塗り絵バージョン
(3DCGデザイン：国際アート&デザイン大学校)



発行 2023年3月
発行者 須賀川市
協力 認定NPO法人アニメ特撮アーカイブ機構 (ATAC)
すかがわ特撮塾第1期生
全国自主怪獣映画選手権
学校法人国際総合学園FSGカレッジリーグ国際アート&デザイン大学校
写真協力 株式会社円谷プロダクション
東映株式会社
東宝株式会社
森ビル株式会社



須賀川市は、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

